

オオクチバス等防除モデル事業について

環境省として優先的に取り組むべき水域について、関係省庁、地方公共団体、NPO等と連携して、モデル事業として防除に着手する。

1．モデル事業候補地選定の考え方

- ・環境省が所管する保護地域又は環境省レッドリスト掲載種の生息地において、オオクチバス等による被害が生じ又は生じるおそれがある水域のうち、現にオオクチバス等の生息が確認されている水域を選定する。
- ・水域の選定に当たっては、可能な限りタイプの異なる水域（天然湖沼、ため池等）が含まれるよう考慮する。

2．モデル事業候補地

伊豆沼・内沼（宮城県）：天然湖沼 ラムサール登録湿地 400ha

- ・当該水域からの完全排除のため、既存情報の再整理、各主体間の連携強化、計画策定及び体制整備を実施。

羽田沼（栃木県）：ため池 ミヤコタナゴ生息地保護区 12ha

- ・当該水域からの完全排除のための防除技術の調査及び計画策定を実施。

片野鴨池（石川県）：天然湖沼 ラムサール登録湿地 数 ha

- ・オオクチバス等の分布実態調査と防除技術の調査を実施。

犬山市内のため池（愛知県）：ため池 希少な魚類・トンボ類生息地 数 ha

- ・当該水域からの完全排除のための防除技術の調査及び計画策定を実施。

琵琶湖（滋賀県）：天然湖沼 ラムサール登録湿地 60,000ha

- ・オオクチバス等の繁殖に関して琵琶湖全域と内湖の関係を把握し、内湖における効果的・効率的な防除のための防除技術の調査及び計画策定を実施。

蘭牟田池（鹿児島県）：天然湖沼 ベッコウトンボ生息地保護区 40ha

- ・オオクチバス等の分布実態調査と防除技術の調査を実施。

天然湖沼、ため池以外の水域タイプに関しては、モデル事業として実施可能な候補地について検討を進めることとしている。